

本大会は、少年硬式野球団体同士が交流することにより、少年野球の普及と発展を図ることを目的とする。試合は、当年度公認野球規則、アマチュア野球内規及び以下の規定を適用する。

## ■大会運営に関する規定

- 1 チーム責任者は、チーム（監督・コーチ・選手）の行動ならびに観客席での応援などに対して責任を負う。
- 2 本大会に参加できる選手は、所属団体の規定を満たすものとする。ただし、本大会の参加資格は、2024年5月末日の時点で各所属団体に登録を完了したチーム（監督、コーチ及び選手）とする。
- 3 チームは、単独チームであり、ベンチ入りができる選手は、20名以内で編成する。各試合毎に登録選手を本部にメンバー表にて明示する。ベンチに入ることができる指導者等は、監督・コーチ・スコアラーの4名までとする。当日、指導者の変更がある場合、専用の「遅刻・欠席・変更」届を本部に提出すれば、変更等を認める。
- 4 選手・監督・コーチは、同一のユニフォームを着用する。なお、背番号は所属の団体の規定に従う。ただし、スコアラーがコーチであってもユニフォームを着用したままでのベンチ入りは認めない。
- 5 登録選手が10名以下になった場合は不戦敗とする。
- 6 ベンチは組み合わせ表の上段（左側）のチームを一塁側とする。（リーグ戦では大会本部の指示に従う）
- 7 グラウンドインから試合終了まで、監督、コーチ、スコアラー、登録選手以外はベンチ（グラウンド）に入ることができない。（試合前ノック時の球出し等は登録選手が行うこと）
- 8 グラウンドインしたチームは球場責任者の指示のもと、速やかに試合前の練習を行うこと。また、グラウンドルールがある場合はそれに従う。
- 9 傷害処置については、大会中の負傷または疾病に対して応急処置は施すが、それ以上主催者は、責任を負わない。
- 10 ゴミは、球場施設内に捨てず、必ず持ち帰ること。スタンドで応援する選手、家族等にも徹底する。

## ▼ 会場到着から試合開始までの注意事項

- 11 各チームは試合開始90分前に試合球場へ到着すること。やむを得ない理由で遅れる際は、球場責任者へ連絡する。
- 12 球場に到着したチームは、速やかに球場本部にその旨を報告し、次の書類を提出する。  
《提出書類》事前登録書 … 1部  
遅刻・欠席・変更届（変更がなければ不要） … 1部  
メンバー表（各リーグのものを使用） … 5部  
投球数確認シート … 原本1部・コピー2部
- 13 球場本部による書類の確認後、資格審査を受ける。道具審査は審判部が行う。道具のメーカー等は問わない。（道具点検項目 ヘルメットの損傷、バットの変形、グリップのテープ、AEDの所持、ベンチに持ち込む防具ほか）（AEDの所持はリーグ規定に準ずる）
- 14 各チームの監督と主将は試合開始予定時刻40分前、または前試合4回終了後（コールドゲームのときは試合終了次第）、球場責任者及び審判員立会いのもとで攻守の順を決める。（決勝戦のみ）
- 15 次の試合のチームは、前の試合中、グラウンド内で投球及び送球練習をすることはできない。ただし、球場外にあるブルペンは使用できる。
- 16 試合前のシートノックは5分間とする。なお、守備位置につかずシートノックの補助をする登録選手は、必ずヘルメットを着用する。また、天候、時間の都合によりサイドノックとなることもある。その場合でも球出し等の補助をする登録選手は、必ずヘルメットを着用する。

## ▼ 試合終了後の注意事項

- 17 勝利したチームのチーム責任者及びスコアラーは、試合終了後速やかに、大会本部に来て、投球数確認シートを運用し投球数の確認を行う。

## < 投球確認シートの運用方法 >

- (1) 試合終了後、球場責任者が投球確認シート（原本）に記入サイン後、球場責任審判及びチーム責任者へ確認を求め、サインを受ける。球場責任者は、投球確認シートを大会結果LINEに保存する。
- (2) チーム責任者は、サインされた投球確認シート（原本）を次の試合まで保管する。
- (3) チーム責任者は、次の試合開始前に投球確認シート（原本）とコピー2部を球場本部へ提出する。注）ダブルヘッダーの場合は、試合前の攻守決定時に投球数確認シート（原本）を相手チームに開示する。

18 雨天、グラウンド状況によりダブルヘッダーになることもある。ダブルヘッダーを実施する場合は、大会本部及び球場責任者の指示に従うこと。（原則、シートノックなし、試合終了40分後に試合開始とするが、状況に応じて球場責任者の判断を仰ぐ）

## ◇大会に関する共通理解事項

- 1 球場責任者は、各連盟支部長、副支部長、ブロック長、副ブロック長及び各連盟が指名した者とする。
- 2 球場運営は、試合当該チームとする。（詳細は球場運営マニュアル参照）
- 3 大会参加費は、1リーグ¥50,000とし、各リーグで指定の口座に振り込む。
- 4 試合球は、大会運営部が準備する。1試合に5球を使用し、ロストボールを交えて対応する。
- 5 審判員は、連盟登録審判員で行う。審判員の手当は、**基本手当¥2,000、試合手当1試合につき¥1,000、球審手当1試合につき¥1,000、昼食及び交通費（高速代・駐車代）は大会経費より負担する。**
- 6 役員（球場責任者）についても、**昼食、交通費（高速代・駐車代）は大会経費より負担する。**
- 7 スコアブック（記録）は当該チームで担当する。
- 8 前日までの雨天予報等での中止・延期の判断は、大会運営委員の相互により判断する。中止・延期の場合は大会事務局から各リーグの代表に連絡が入る。その後、各チームの代表に連絡する。
- 9 当日の雨天判断は、球場責任者がグラウンド状況を確認後、大会事務局に報告しチーム責任者に連絡する。

## ◇大会アナウンスに関する共通理解事項

- ・ 試合開始時刻：1回表攻撃終了、投球数アナウンス後「試合開始時刻は〇〇時〇〇分です。」
- ・ 投球数：各イニングの表・裏の攻撃終了後 「この回の投球数は〇〇球、累計〇〇球です。」  
投手交代時、選手交代のアナウンス後「〇〇投手、この回の投球数は〇〇球、累計〇〇球です。」  
試合終了後、全ての投手累計投球数 「〇〇投手、〇〇球でした。」
- ・ 試合終了時刻：「試合開始時刻〇〇時〇〇分、終了〇〇時〇〇分、所要時間〇時間〇〇分です。」
- ・ 次試合開始時刻：「第〇試合の試合開始予定時刻は〇〇時〇〇分です。しばらくお待ちください。」

## ■競技に関する規定

- 1 各試合は7回戦で行い、4回終了をもって正式試合とする。試合成立後は、試合開始から2時間（決勝戦は2時間20分）を超えた場合、新しいイニングには入らない。（後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は、後攻チームが攻撃中でも規定時間になれば、その時点で試合を終了する）
- 2 4回終了時、もしくは開始1時間経過後の裏の攻撃が終了後、約5分間の給水のインターバルを設ける。ただし、天候により変更あるものとする。なお、インターバル時間は試合時間には入らない。
- 3 以下の項目に留意し、試合のスピーディー化を図る。
  - (a) 攻守交代時、守備に移るチームが速やかにポジションにつくことはもちろんのこと、攻撃に移るチームも第一打者とベースコーチはミーティング（円陣）に加わず、所定の位置に速やかにつくこと
  - (b) 投球を受けた捕手は、速やかに投手に返球し、これを受けた投手は、ただちに投手板を踏んで、投球位置につき、捕手からのサインを受けること
  - (c) 打者は、みだりにバッタースボックスを出ることは許されない。たとえ、タイムを要求しても審判員がタイムを宣告しないときはインプレイとすること
  - (d) 次打者は、必ずネクスト・バッタースボックスに入り待機すること
  - (e) 捕手は、投手への返球や野手への声かけのために、一球ごとにホームプレートの前に出ないこと
- 4 投手の準備投球は、7球以内（攻守交代時3球）を原則とし、突然の場合は、審判の判断とする。
- 5 選手が打席に入るときは、必ず両耳付きヘルメットをかぶること（次打者を含む）。また、走者も危険防止のため必ず着用すること。なお、捕手も防護用ヘルメットと所定の防具を着用すること（練習時も含む）。
- 6 臨時代走を認める。特別な事情（頭部への死球のほか、負傷など）により、一時的に休めば試合に出場できると審判員が判断したときに限り適用する。この場合、その打者の最も近い打撃の完了した選手（投手を除く）を特別代走者とする。

- 7 グラウンド内でのブルペンで投球練習を行うときは安全対策上、打球監視員を必ず1名置くこと。試合中の投球および送球練習は、ブルペンにて1組とする。
- 8 バットボーイ、シートノック補助員は登録選手が務め、両耳ヘルメットを着用すること。
- 9 コーチスボックスには、監督、コーチ、選手のいずれかが入る。必ずヘルメットを着用すること。(選手は両耳ヘルメットを着用)
- 10 規則 6.04 に規定のとおり、監督、コーチ、選手、スコアラー、マネージャー等いずれも相手選手を惑わすような行動をとってはならない。
- 11 手袋、リストバンド、リストガード、エルボーガード、フットガードの使用を認める。打者が走者になった場合、これらの着脱のためだけのタイムは認められない。ただし、打者走者が二塁ベースに到着した際に限り、これらの着脱のためのタイムを認める。(速やかにベースコーチがとりにいくこと)
- 12 ボールボーイは、各チーム3名(ベンチ横2名ずつ、外野1名)配置する。選手が行う場合は、練習用のユニフォーム等、背番号が付いていないものとする。選手が不足している場合は保護者が代行することもできる。(保護者においてもヘルメット着用すること)
- 13 サングラスは、防眩のため野手に限り身につけることができる。ただし、ミラーレンズ、ガラスレンズは禁止とする。また、首輪(リング)については、ユニフォームの外から見えないように身につけるべきものとし、露見するものは禁止する。
- 14 指導者のサングラス使用については、原則禁止であるが、必要に応じて審判員に申し出れば、サングラス着用を認める。(プラスチック製とする)
- 15 監督またはコーチは、タイムを取り、投手のもと(マウンド)へ行くことができる。監督またはコーチが、1イニングに同一投手のもとへ2度目に行けば、その投手は自動的に交代しなければならないが、野球規則 5.10 (l) を適用せず、他の守備につくことができる。ただし、その試合(同一イニング)で再び投手に戻ることはできない。
- 16 守備側のタイムは、1試合(7イニング)につき3回まで(捕手のみは除く)とする。攻撃側のタイムは1試合(7イニング)につき3回までとする。また、内野手(捕手を含む)が2人以上マウンドに行った場合は、1回にカウントする。
- 17 延長回及びタイブレークに入った場合は、それ以前の回数に関係なく、守備側のタイムは1イニングにつき1回、攻撃側のタイムは1イニングにつき1回とする。
- 18 7イニングまでに、守備側のタイムが4回目のときは、自動的に投手交代をしなければならない。この場合、その投手は他の守備につくことはできるが、その試合で再び投手として戻ることはできない。
- 19 規則 5.10 (d) 【原注】前段のうち「同一イニングでは、投手が一度ある守備位置についたら、再び投手となる以外他の守備位置に移ることはできないし、投手に戻ってから投手以外の守備位置に移ることもできない」は適用しない。
- 20 その他、特に定めのない限り、公認野球規則を適用する。

## ■競技に関する特別規定

- 1 4回終了時点10点差以上、5回以降7点差以上の場合、コールドゲームとする。
- 2 7回終了後、同点の場合は延長戦に入る。試合開始から2時間（決勝戦2時間20分）以内は、通常延長10回まで行う。通常延長で勝敗が決まらない場合、あるいは試合開始から2時間（決勝戦2時間20分）を超えた場合は、〈タイブレーク実施細則〉の方法によりタイブレーク方式で勝敗が決するまで行う。

### 〈タイブレーク実施細則〉

#### (1) 延長回に関する特別規則

- (イ) 延長10回あるいは試合開始から2時間を超えて（いずれか早い方）、両チームの得点が等しいとき、以降の回の攻撃は、1アウト走者満塁の状態から行うものとする。
- (ロ) 打者は、前回正規に打撃を完了した打者の次の打順の者とする。
- (ハ) この場合の走者は、前項による打者の前の打順の者が一塁走者、一塁走者の前の打順の者が二塁走者、そして、二塁走者の前の打順の者が三塁走者となる。
- (ニ) この場合の代打及び代走は認められる。

#### (2) チームおよび個人記録

チームおよび個人記録は公式記録とするが、以下に掲げる事項に留意すること。

##### (ホ) 投手成績

- ・ 規定により出塁した3走者は、投手の自責点とはしない。
- ・ 完全試合は認めない。
- ・ 無安打無得点試合は認める。

##### (ヘ) 打撃成績

- ・ 規定により出塁した3走者の出塁の記録はないものとする。ただし、盗塁、盗塁刺、得点、残塁などは記録する。
- ・ 規定により出塁した3走者を絡めた打点、併殺打などはすべて記録する。

- 3 試合成立後に、降雨や視界不良などにより試合続行が不可能となった場合、両チームが完了した均等回の総得点で勝敗を決する。同点の場合は最終回時点で出場していたメンバー全員の抽選とする。試合成立前に降雨や視界不良などにより試合続行が不可能になった場合、特別継続試合とし、大会本部が指定した日時・場所で、中断した状況から再開する。
- 4 特別継続試合時における投球制限は、前項5を適用する。ただし、投手投球数記録表には一時停止試合の記録を追記する。
- 5 投手の投球数に関しては、次の〈投球制限ガイドライン〉を適用する。

### 〈投球制限ガイドライン〉

- (1) 1日最大80球以内とし、連続する2日間で120球以内とする。連続する2日間で80球を超えた場合、3日目は投球を禁止する。
- (2) 3連投（連続する3日間で3試合）する場合は、1日の投球数を40球以内とする。4連投（連続する4日間で4試合）は禁止する。
- (3) 1日80球投球後、翌日投球を休めば3日目は80球の投球を可とする。
- (4) (1)～(3)を基本原則とするが、打席の途中で制限数がきた場合は当該打者の打席終了までは投球を認める。制限数を超過した球数は投球数にはカウントしない。
- (5) 連続する2日間で80球を超える投球をした投手並びに3連投した投手は、登板最終日ならびに翌日は捕手としても出場できない。
- (6) ボークは投球数としない。
- (7) 雨などで特別継続になった試合は投球数にカウントする。
- (8) 前のイニングに制限数に達し、投球できない投手がファウルラインを越えて準備投球に向かった場合でも、その時点で投手の交代を認める。（公認野球規則5.10(i)よりも投球数制限を優先する）
- (9) 万が一、制限数を超過して投げられた投球も有効とする。
- (10) 1年生が投球する場合も上記に準ずるが、指導者は十分考慮すること。
- (11) ダブルヘッダーの場合で2試合に登板した場合、連続2日間投球したこととする。また1試合のみ投球した場合は1日の投球とする。
- (12) 申告敬遠は投球数にカウントしないが、敬遠に至るまでに実際に投じた投球は投球数にカウントする。  
例：2ボール1ストライクとなり申告敬遠をした場合、それまでに投じた3球は投球数にカウントする。
- (13) 異なる大会であっても、連日投球する投手は、このガイドラインに則った投球制限で投球する。